

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 9 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2011～2013

課題番号：23330051

研究課題名(和文) 対中東資源外交の比較・国際政治史

研究課題名(英文) Comparative and international history of the resource diplomacy toward the Middle East

研究代表者

池内 恵 (Ikeuchi, Satoshi)

東京大学・先端科学技術研究センター・准教授

研究者番号：40390702

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 14,200,000円、(間接経費) 4,260,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、日本の対中東資源外交、特に対イラン資源外交の歴史に関する資料の発掘と分析、論文の執筆と発表において着実な成果を上げた。代表例はアジア経済研究所刊行の途上国研究専門誌『アジア研ワールド・トレンド』2013年4月号の特集「世界の資源外交」である。「特集にあたって 資源外交研究の射程」(池内恵)で資源外交研究の理論と方法論の全体像を示したうえで、日本とイランの間の資源外交に関して日本側とイラン側の双方の資料から検討し、さらにEUによるデザートテックの事例と比較することで、日本の資源外交を国際的な文脈に位置付けることができた。

研究成果の概要(英文)：This project has explored the history of Japan's resource diplomacy toward the Middle East. Participants of this project has contributed to Ajiken World Trend journal's April 2014 special issue which is dedicated to the topic of resource diplomacy. Satoshi Ikeuchi, the project leader, edited the issue and contributed an overview. Each of the project participants contributed an article to this journal issue based on the researches conducted under the purview of this project. Suzuki Hitoshi gave a historical reappraisal of IJPC project. Komiya Kyo reconsidered the IJPC project in the historical process of restructuring of Japan's Zaibatsu conglomerate. Miyagi Taizo gave a historical notes on post-war Japan's resource diplomacy in the South East Asia. Suzuki Kazuto brought in a comparative perspective by taking up the case of EU's Desertec project in the Middle East and North Africa.

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：政治学・国際関係論

キーワード：外交史 国際関係史 資源外交 イラン 中東

1. 研究開始当初の背景

(1) エネルギー資源や希少鉱物資源をめぐる国際関係の研究は、従来は英国と米国の世界戦略についての研究が大部分であり、日本の役割はほとんど検証されてこなかった。

(2) 日本においては、中東あるいは東南アジアをめぐる地域研究と、対中東・東南アジア等への日本の外交、特に資源外交についての研究は統合されていなかった。

(3) 資源外交は、他の外交課題以上に、「交渉」としての秘密性が高く、情報の公開性が低い。特に、資源産出国の側の政策決定過程は、透明性・説明責任を求められることが少ない政治・経済体制が多いことから、解明に困難を極めてきた。

2. 研究の目的

(1) 本研究の目的は、中東のエネルギー資源をめぐる日本の政策を、中東政治研究者と日本政治史研究者が協力して検討するところにある。資源産出国と資源輸入国の双方の政策決定過程を突き合わせてみることで、通常の一方向からのアプローチでは得ることのできない総合的な視点を確保する。

(2) 日本の対中東の資源外交を、対東南アジアの資源外交と比較するとともに、西欧諸国による対中東・対ロシアの資源外交政策とも比較を行うことで、グローバルな資源外交の国際政治史の構造的・多面的な把握を行うことが本研究プロジェクトの目的である。

3. 研究の方法

(1) オーラル・ヒストリー

資源外交は、機密性を帯びたテーマであるがゆえに、官公庁が資料を公開することや、当事者が公開資料によって記録に残すことが少ない。そのため、本研究では、必ずしも全面的な公開を前提としない形で、関係者へのオーラル・ヒストリーの方法を活用した。その際には、日本政治史研究者だけでなく、中東地域研究者も共にオーラル・ヒストリー対象者へ聞き取りを行うことで、多様な視点からの取り組みが可能になった。特に重視するのは、対イラン資源外交にかかわる重大案件であった I J P C プロジェクトへの関係企業、特に、主体となった三井物産の関係者へのオーラル・ヒストリーである。I J P C についてはイラン側のオーラル・ヒストリーも行った。2012年4月にはイラン外交史料館にて元イラン外務次官で(その後駐日大使に就任した)のナザルアハーリー氏へのインタビューを行い、I J P C をはじめとする対日資源政策についての見解を記録した。

(2) 未公開文献・録音資料の発見

オーラル・ヒストリーと並行して用いた方法は、個人と官庁において未公開のまま死蔵

されている資料の発掘である。また20年以上以前に聴取されながら整理・公開されなかったインタビューや、インタビューの音声記録なども各種の資料庫に死蔵されており、それらを再活性化することでアクセス可能な資料にすることを試みた。その際に、国立国会図書館憲政資料室、日本貿易振興機構アジア経済研究所、経済産業研究所のそれぞれの資料庫にて、未公開・未整理の資料の閲覧を行った。

(3) 中東側の対日政策資料の利用

日本の資源外交研究においてこれまでに決定的に不十分だった、資源外交の相手側である中東諸国側の資料に中東地域研究の方法によってアクセスし、日本政治史研究と架橋することがこのプロジェクトの特筆される新たな方法であった。特に、ペルシア語文献を活用し、これまでに日本や欧米の資源外交研究において利用されていなかった資料を発掘した。その際に、イラン外交史料館を訪問し、イラン国立公文書館へも調査を行って、資料の収蔵・公開状況を調査した。

4. 研究成果

(1) 未公開資料の発掘

本研究によって、日本側と中東側の双方において、未公開あるいはそれに準ずるこれまでにアクセスされていなかった資料が多く発掘された。本研究では、それらの資料の所在を確認するだけでなく、未整理のものについては本研究の予算の支出によって整理を進め、一部は資料集として、あるいは翻訳や研究ノートとして、今後の研究において参照が可能になるよう公表を進めた。国立国会図書館憲政資料室では通産省および三井物産や I J P C において資源外交を進めた当事者の所蔵資料を大規模に発見し、整理や複写の作業に着手した。経済産業研究所および国立公文書館ではイランおよび I J P C にかかわる政府側の対応の詳細を記した公文書の所在を確認した。日本貿易振興機構アジア経済研究所ではイスラーム革命以前のイランとの経済関係にかかわった民間企業の当事者、特に I J P C に関わった当事者の証言テープを発見し、文字に起こして資料として確定した。

(2) 中東側の資料の発掘

本研究プロジェクトの成果の著しい特色は、上記の未公開資料の発掘・発見を、中東川資料についても行ったことである。I J P C については、イラン側の合弁親会社 N P C (イラン国営石油化学会社)の会長であったバーゲル・モストーフィのオーラル・ヒストリー『イランの石油化学産業——始まりから革命前夜まで』が、「イラン研究財団」によってペルシア語で記録されていたが、これが I J P C についても重要な証言を含んでいることを本研究の調査によって発見し、該当

箇所を、在日イラン人研究者のケイワン・アブドリ氏の協力を得て翻訳し、『テクノクラート』が語る『開発独裁』下のイラン石油化学産業の歴史』として本プロジェクトの成果を特集した『アジア研ワールド・トレンド』2013年4月号(36-41頁)に収録して公開した。

上記の作業によって、日本の資源外交をめぐる、官と民の双方の証言記録や史料の確定や所在の確認を行ったことは、日本近代史を資源外交の側面から見直す作業の基礎部分をなすものであり、今後の歴史学研究の発展に大きく資するものと考えられる。また、日本の資源外交政策を日本側の視点・資料だけではなく、中東諸国、とくにイラン側の対日資源政策の意思決定過程・意図をめぐる現地語資料の発掘によって裏づける一歩を示したことは、前例のない貴重な成果である。

(3) 学会における成果発表

本研究プロジェクトでは、日本政治学会および日本比較政治学会という政治学・政治詩学における代表的な学会において、分科会セッションを企画・受理され、研究代表者および研究分担者が発表を行った。日本比較政治学会の2011年度年次大会(6月18日・北海道大学)にて分科会「資源外交の比較政治」を実施した。池内恵(東京大学)による全体の方向性の提起に続き、鈴木一人が欧州の「資源外交」は成立するのか?—地域統合と資源外交の戦略的矛盾」と題する報告を行い、他の研究分担者も会場から議論に参加した。2012年度には、日本政治学会の戦前戦後・比較政治史研究フォーラムの春季研究会(6月19日・東京大学)にて、本研究プロジェクトの成果の発表を中心にした「日本・イラン「資源外交」の戦後史—IJPCを中心に」セッションが受理され、研究代表者・研究分担者が報告を行った。池内恵が『資源外交』研究の課題と射程』を、鈴木均が「なぜいまIJPCプロジェクトを調査するのか—イラン地域研究の立場から」を、小宮京が「IJPC前史としての三井物産大合同」を発表し、御厨が司会と講評を担当した。

(4) 論文の発表

本研究プロジェクトの成果は論文の形で広く公開された。その顕著な例は、アジア経済研究所刊行の途上国研究専門誌『アジア研ワールド・トレンド』(2013年4月号)の特集「世界の資源外交」である。この特集では本プロジェクトの成果の発表を主軸とするものになった。「資源の政治と外交」(御厨貴)、「特集にあたって—資源外交研究の射程—」(池内恵)、「デザerteckをめぐる欧州の資源外交」(鈴木一人)、「戦後史のなかの資源外交」(宮城大蔵)、「IJPCプロジェクトを再考する」(鈴木均)、「戦後財閥再編史とIJPC」(小宮京)と、本研究プロジェクトの全員が論文を寄稿し、資源外交に関する

中東地域専門家と日本政治史研究者の共同研究の所在と可能性を示すことができた。

また研究代表者(池内)は旧通商産業省の対イラン資源外交に関する国立公文書館に所蔵された文書群の所在を確認し、論文予備稿を作成して研究会発表(2014年2月)を行った。発表された論文は改稿されて近日中に論文として刊行する予定である。

(5) 資料集の刊行

研究成果の発表の一環として、発掘した過去のオーラル・ヒストリー記録を、鈴木均編「オーラル資料編・イラン革命と日系企業第一冊 IJPC 関係(1)」(アジア経済研究所、2013年2月)として刊行した。また、イラン革命時のイラン国営石油化学公社総裁のモストーフイ氏のオーラル・ヒストリー記録『イランの石油化学産業—始まりから革命前夜まで』のペルシア語から日本語への翻訳をケイワン・アブドリ氏に依頼して行い、特に本プロジェクトに該当する部分を、『アジア研ワールド・トレンド』の本プロジェクト特集号に掲載して刊行した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 8 件)

①鈴木均、「イラン・ジャパン石油化学プロジェクトを再考する」、『アジア研ワールド・トレンド』、査読無、2013年、第19巻4号、34-39頁

②鈴木一人、「デザerteckをめぐる欧州の資源外交」、『アジア研ワールド・トレンド』、査読無、2013年、第19巻4号、18-23頁

③宮城大蔵、「戦後史の中の資源外交」、『アジア研ワールド・トレンド』、査読無、2013年、第19巻4号、30-33頁

④御厨貴、「資源の外交と政治」、『アジア研ワールド・トレンド』、査読無、2013年、第19巻4号、1-1頁

⑤小宮京、『戦後財閥再編史とIJPC』、『アジア研ワールド・トレンド』、査読無、2013年、第19巻4号、46-49頁

⑥池内恵、「資源外交研究の射程」、『アジア研ワールド・トレンド』、査読無、2013年、第19巻4号、2-3頁

⑦小宮京、「三井物産大合同の再検討—イラン・ジャパン石油化学(IJPC)プロジェクト前史として」、『桃山法学』、査読無、第20/21号、2013年、257-285頁

⑧鈴木一人、「EUの「資源外交」を巡る戦略とその矛盾」、『年報 公共政策学』、査読有、第6号、2012、139-158頁

〔学会発表〕(計 6 件)

①宮城大蔵、「冷戦後 20 年の日本外交」、日本国際政治学会、2013 年 10 月 25 日、新潟朱鷺メッセ

②鈴木均、「なぜいま I J P C プロジェクトを調査するのか——イラン地域研究の立場から」、日本政治学会・戦前戦後・比較政治史研究フォーラム・2012 年度春季研究会、2012 年 6 月 9 日、東京大学

③小宮京、「IJPC 前史としての三井物産大合同」日本政治学会・戦前戦後・比較政治史研究フォーラム・2012 年度春季研究会、2012 年 6 月 9 日、東京大学

④池内恵、「『資源外交』研究の課題と射程」、日本政治学会・戦前戦後・比較政治史研究フォーラム・2012 年度春季研究会、2012 年 6 月 9 日、東京大学

⑤鈴木一人、「欧州の「資源外交」は成立するのか？—地域統合と資源外交の戦略的矛盾」日本比較政治学会、2011 年 6 月 18 日、北海道大学

⑥池内恵、「資源外交の比較政治——企画の趣旨」日本比較政治学会、2011 年 6 月 18 日、北海道大学

〔図書〕(計 6 件)

①宮城大蔵(編著)、中央公論新社、『戦後アジアの形成と日本』、2014 年、全 302 頁

②池内恵(共著)、中央公論新社、『アメリカにとって同盟とは何か』2013 年、(担当執筆) 219-242 頁

③宮城大蔵(共著)、岩波書店、『戦後日本とアジア』2013 年、(担当執筆) 648-668 頁、145-148 頁

④鈴木均(編著)、日本貿易振興機構アジア経済研究所、『オーラル資料編・イラン革命と日系企業 第一冊 IJPC 関係(1)』、2013 年、全 120 頁

⑤御厨貴、千倉書房、『政治へのまなざし』2012 年、全 256 頁

⑥御厨貴、中央公論新社、『オーラル・ヒストリー(第2版)』2011 年、全 215 頁

6. 研究組織

(1) 研究代表者

池内 恵 (IKEUCHI Satoshi)
東京大学・先端科学技術研究センター・准教授
研究者番号：40390702

(2) 研究分担者

鈴木 均 (SUZUKI Hitoshi)
独立行政法人日本貿易振興機構アジア経済研究所・地域研究センター・上席主任調査研究員
研究者番号：80414077

小宮 京 (KOMIYA Hitoshi)
桃山学院大学・法学部・准教授
研究者番号：80451764

御厨 貴 (MIKURIYA Takashi)
東京大学・先端科学技術研究センター・客員教授
研究者番号：00092338

宮城大蔵 (MIYAGI Taizo)
上智大学・外国語学部・准教授
研究者番号：50350294

鈴木一人 (SUZUKI Kazuto)
北海道大学・法学(政治学)研究科(研究員)・教授
研究者番号：60334025